

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上PDCA）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日・調査対象 令和6年4月18日（木） 第4学年、第5学年

3 調査内容

（1） 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・算数・理科
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容



（2） 質問調査

※ICT端末を用いたオンライン方式にて実施

- ① 児童質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

4 本市の参加状況

- （1） 学校数 宇都宮市立小学校 69校（69校中）
- （2） 児童数 第4学年 国語 4,149人 算数 4,150人 理科 4,158人
第5学年 国語 3,996人 算数 4,000人 理科 4,010人

5 留意事項

（1） 調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

（2） 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリ一別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

（3） 質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

1 小学校第4学年 国語

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	64.7	66.0	△1.3

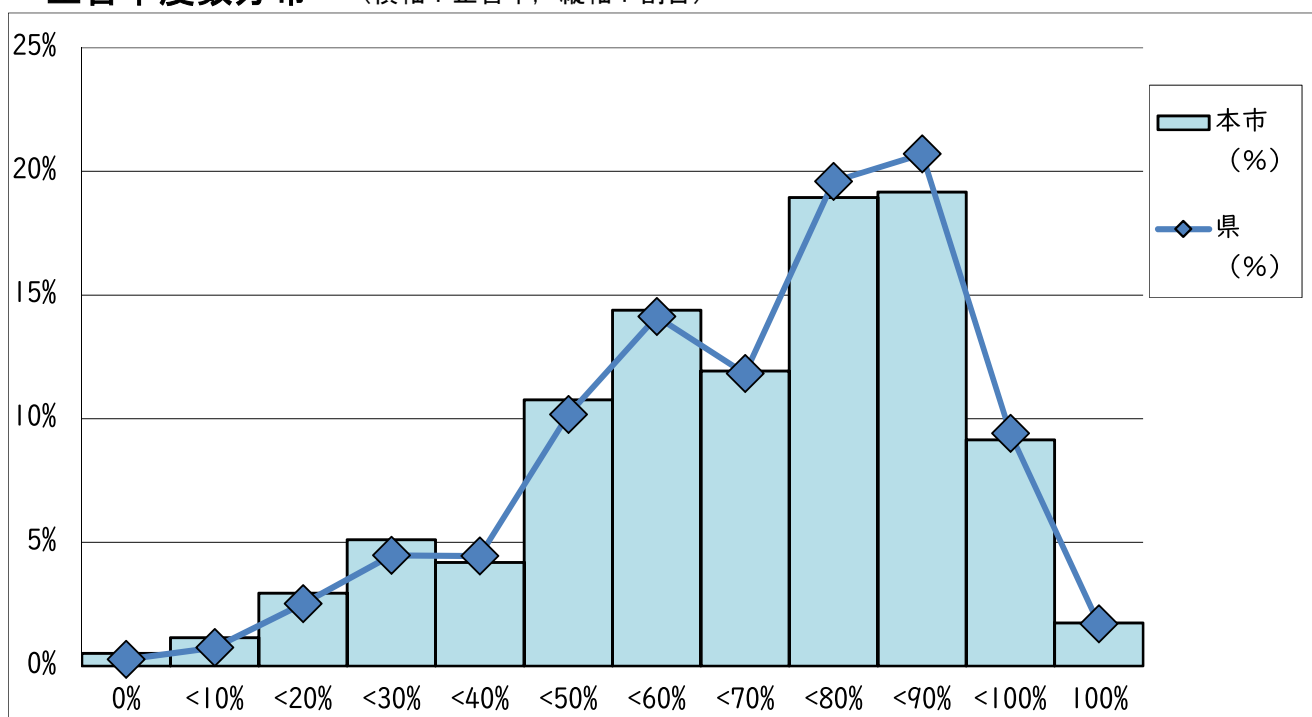
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.4	67.1	0.3
	情報の扱い方に関する事項	43.8	45.7	△1.9
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	73.4	△1.3
	話すこと・聞くこと	81.2	81.2	0.0
	書くこと	46.2	54.9	△8.7
	読むこと	64.3	64.5	△0.2
観点別	知識・技能	65.7	65.7	0.0
	思考・判断・表現	64.0	66.3	△2.3

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 0.3 ポイント)

- ローマ字とその読み方の組合せとして適切なものを選ぶ設問の平均正答率は 56.9% で、県平均を 1.9 ポイント上回る。ローマ字を正しく読むことに良好な状況が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 △1.9 ポイント)

- 国語辞典に掲載されている言葉の意味の中から文中の言葉の意味に合うものを選ぶ設問の正答率は 43.8% で、県平均を 1.9 ポイント下回る。国語辞典の使い方の理解に課題が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 △1.3 ポイント)

- 漢字のへんを問う設問の正答率は 72.1% で、県平均を 1.3 ポイント下回る。漢字がへんやつくりなどから構成されていることを理解することに課題が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 0.0 ポイント)

- 司会者の発言として適切なものを選ぶ設問の正答率は 77.4% で、県平均を 1.2 ポイント上回る。話合いの内容を基に考えをまとめることに良好な状況が見られる。

書くこと (県平均との差 △8.7 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの平均正答率は 42.6% で、県平均を 9.0 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えとそれを支える理由を書くことの正答率は 48.6% で、県平均を 7.6 ポイント下回る。理由を明確にして文を書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 △0.2 ポイント)

- 物語を読んで人物の行動の理由や気持ちを捉える設問の平均正答率は 68.2% で、県平均を 1.1 ポイント上回る。叙述を基に、人物や場面の様子を適切に捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

情報の扱い方に関する事項

文章を正確に理解するために、国語辞典を引くことが重要である。そのため、国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解させるとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような環境をつくっておくことが必要である。その上で、国語辞典に示される意味について吟味、検討し、文章中の意味として適切なものを捉えられるように指導することが大切である。

書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で自分の立場を明確にすること、二段落目にその考えを支える理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動をとおして、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、理由や事例を記述する際の表現（「なぜなら～」 「例えば～」 等）を用いて書く学習が必要である。

2 小学校第4学年 算数

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	50.0	50.2	△0.2

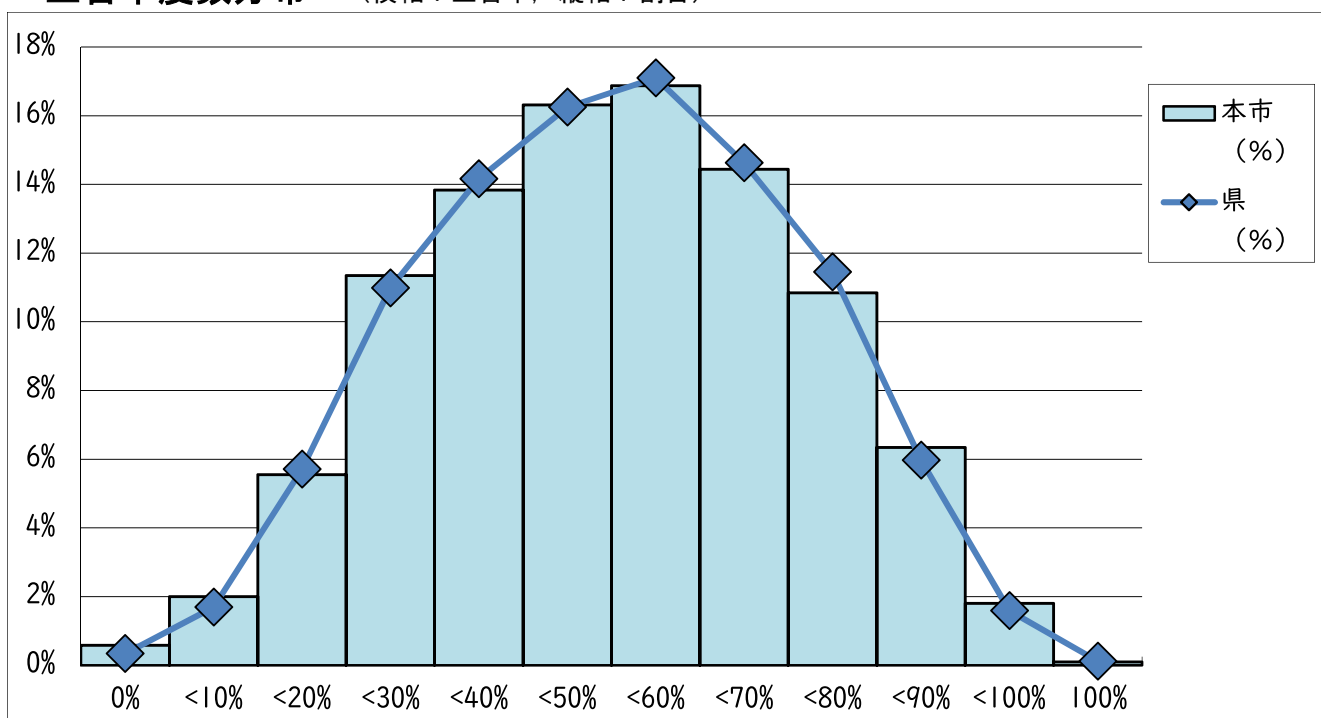
カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	58.9	59.2	△0.3
	図形	53.0	53.7	△0.7
	測定	33.1	32.6	0.5
	データの活用	24.4	24.6	△0.2
観点別	知識・技能	54.3	54.7	△0.4
	思考・判断・表現	38.5	38.3	0.2

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (県平均との差 $\Delta 0.3$ ポイント)

- 数量の関係について□を使って正しく表された式を選ぶ設問の平均正答率は 68.1% であり、県平均を 1.3 ポイント上回る。テープ図を使って数量関係に着目して、立式をすることに良好な状況が見られる。
- 計算をする設問 5 問の正答率は、すべて県平均を 0.3～2.1 ポイント下回る。加法、減法、乗法の筆算、割り切れる除法、小数の計算などの技能の確実な定着に課題が見られる。

図形 (県平均との差 $\Delta 0.6$ ポイント)

- 二等辺三角形になる図を選ぶ設問の平均正答率は 69.7% であり、県平均を 1.6 ポイント上回る。紙を折るなどの活動を通して、辺の長さや角の大きさなど三角形の性質を理解することに良好な状況が見られる。
- 正三角形を作図する設問の平均正答率は 38.9% であり、県平均を 1.1 ポイント下回る。円の性質を理解し、コンパスを用いて作図することに課題が見られる。

測定 (県平均との差 0.5 ポイント)

- 地図から 2 つの道のりを読み取り、差を答える設問の平均正答率 45.5% であり、県平均を 1.6 ポイント上回る。地図から道のりを読み取ることや長さの単位の関係を理解することに良好な状況が見られる。
- はかりの目盛りを読み取り、重さを答える設問の平均正答率は、26.0% であり県平均を 1.0 ポイント下回る。はかりを正確に読み取ることによって課題が見られる。

データの活用 (県平均との差 $\Delta 0.2$ ポイント)

- 2 つの棒グラフから示された値を読み取る設問の平均正答率は 47.8% であり、県平均を 1.6 ポイント下回る。適切な棒グラフを選び、正しく読み取ることによって課題が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

計算の指導においては、筆算の計算の仕方を形式的に教えるのではなく、数の仕組みや計算の意味に基づいて考えさせることが大切である。その際、目的に応じて計算の結果の見積もりをして、計算の仕方や結果について適切に判断することも必要である。また、技能の定着を図るためには、授業の終末に学んだことを確認する問題を設定し児童一人一人の状況を確認したり、再度計算する機会を意図的に設定したりするなど、学んだ内容を復習できるよう、児童の実態に応じた指導が求められる。

図形

図形の学習では、図形を構成する要素や関係に着目して、図形の意味や性質、構成について理解し、さらにその観点を他の図形にも活用して発展的に考える数学的活動を充実させることは大切である。その際、図形や模型の操作や観察など、実感を伴う活動を取り入れ、理解させることが有効である。

3 小学校第4学年 理科

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	73.7	72.8	0.9

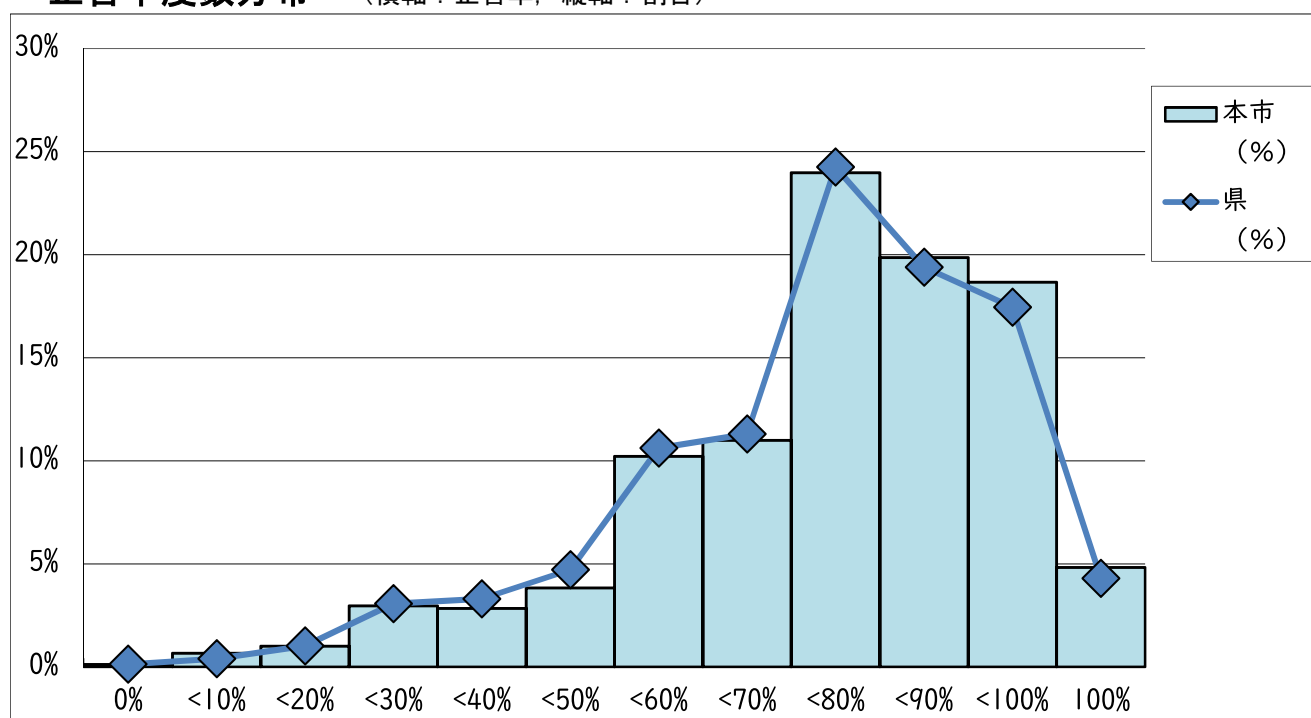
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	72.1	71.0	1.1
	「粒子」を柱とする領域	65.2	63.9	1.3
	「生命」を柱とする領域	82.8	82.4	0.4
	「地球」を柱とする領域	57.7	56.2	1.5
観点別	知識・技能	73.8	72.8	1.0
	思考・判断・表現	73.7	72.8	0.9

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域（県平均との差 1.1 ポイント）

- 車が動くと考えられる距離を選ぶことについての設問の正答率は 72.9%で、県平均を 1.8 ポイント上回る。実験結果のゴムをのばす長さや車の動く距離の関係から、車が動く距離を推測することに良好な状況が見られる。

「粒子」を柱とする領域（県平均との差 1.3 ポイント）

- 形を変えた紙の重さについて正しいものを選ぶことについての設問の正答率は 88.1%で、県平均を 1.4 ポイント上回る。形を変えても重さは変わらないことについての理解に良好な状況が見られる。
- 同じ体積でも種類によって重さが違うことを答えることについての設問の正答率は 42.3%で、県平均を 1.2 ポイント上回るが、教科全体の中で最も低い。同じ体積でも物の種類によって重さが違うことについて、実験結果を関連付けて思考・判断することに課題が見られる。

「生命」を柱とする領域（県平均との差 0.4 ポイント）

- アブラナとタンポポの記録カードを比べてわかることを選ぶことについての設問の正答率は 77.9%で、県平均を 1.6 ポイント上回る。生き物の差異点や共通点を見いだすことについて良好な状況が見られる。
- ダンゴムシが昆虫のなかまではない理由を答えることについての設問の正答率は 71.2%で県平均を 0.2 ポイント下回る。昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いを捉えて記述することに課題が見られる。

「地球」を柱とする領域（県平均との差 1.5 ポイント）

- 影のできる向きと影踏みで逃げる方向について選ぶことについての設問の正答率は 70.8%で、県平均を 1.2 ポイント上回る。影が太陽の反対側にできることや影踏みの動きと関連付けながら思考・判断することに良好な状況が見られる。
- 太陽が動く方位を選ぶことについての設問の正答率は 55.1%で県平均を 0.1 ポイント下回る。時間の経過とともに、太陽の見える向きと影の向きが変化することを捉え、太陽が動く方位を理解することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

「粒子」を柱とする領域

物は、体積が同じでも重さは違うことがあることについては、複数の種類の身の回りにある物を、体積を同じにして、電子天秤を用いて重さを数値化し、重さの違いを比較しながら調べる活動を通して、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現できるよう指導していくことが望まれる。

「地球」を柱とする領域

太陽の位置の変化については、影をつくっている物を目印にして継続的に調べ、日陰の位置や地面にできる陰の位置の変化と太陽の位置を午前から午後になわって数回調べ、太陽の位置が東の方から南の空を通過して西の方に変化することを捉えるよう、実際に調べる活動を通して指導していくことが望まれる。

4 小学校第5学年 国語

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	64.4	63.4	1.0

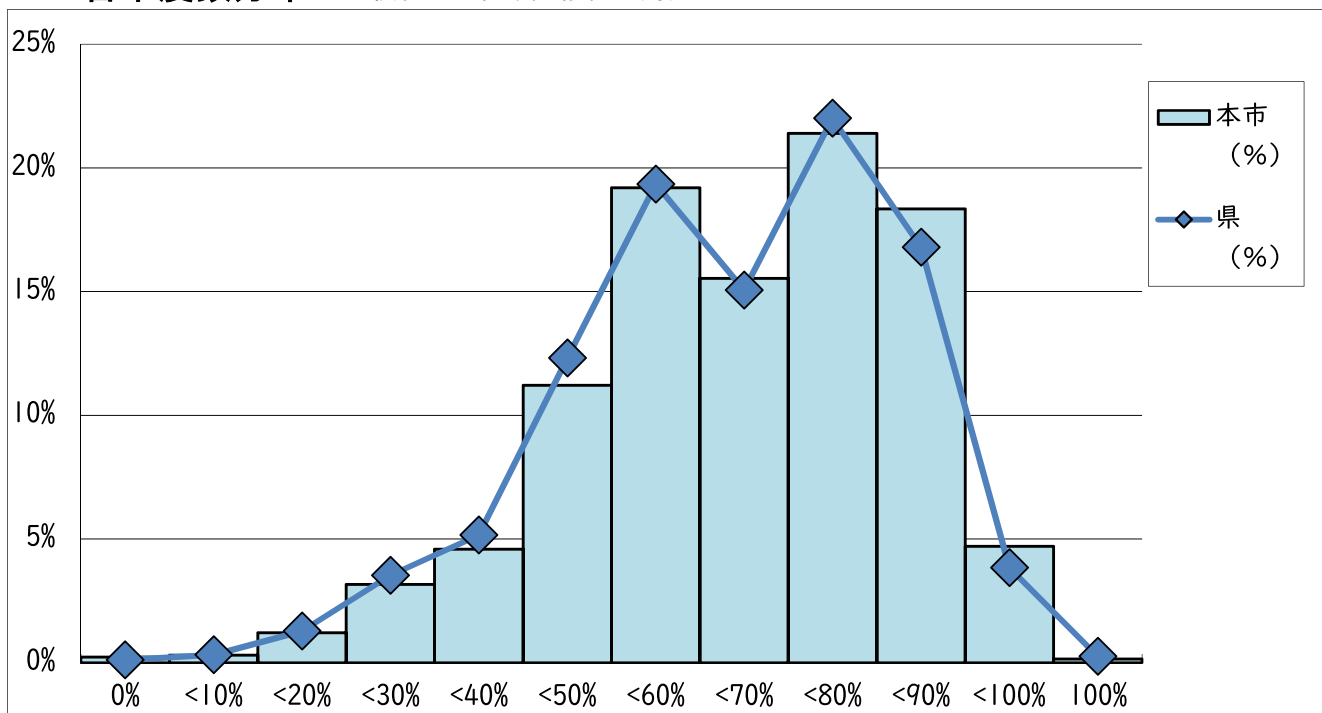
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	72.0	2.8
	情報の扱い方に関する事項			
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	79.9	△1.3
	話すこと・聞くこと	80.4	80.0	0.4
	書くこと	45.1	48.0	△2.9
	読むこと	51.3	50.0	1.3
観点別	知識・技能	75.2	72.8	2.4
	思考・判断・表現	57.0	57.0	0.0

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 2.8 ポイント)

- 修飾語を選ぶ設問の正答率は 77.0%で、県平均を 2.9 ポイント上回る。文の中における連体修飾語を捉えることに良好な状況が見られる。
- 被修飾語を選ぶ設問の正答率は 12.4%で、県平均を 2.7 ポイント下回る。分の中における連用修飾の関係や被修飾語を捉えることに課題が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 Δ1.3 ポイント)

- 正しい慣用句の使い方を選ぶ設問の正答率は 78.6%で、県平均を 1.3 ポイント下回る。慣用句の意味を理解し、使うことに課題が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 0.4 ポイント)

- 話し手の話した内容について適切なものを選ぶ設問の正答率は 85.2%で、県平均を 1.1 ポイント上回る。伝えたいことの中心を捉えることに良好な状況が見られる。

書くこと (県平均との差 Δ2.9 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの平均正答率は 47.3%で、県平均を 4.2 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えを書くことの正答率は 42.7%で、県平均を 2.8 ポイント下回る。資料から読み取ったことを基に、自分の考えを明確にして文を書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 1.3 ポイント)

- 物語の内容として適切なものを選ぶ設問の正答率は 75.3%で、県平均を 1.8 ポイント上回る。場面の移り変わりと結び付けて内容を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

言葉の特徴や使い方に関する事項

修飾と被修飾との関係を理解する学習では、主語と述語が照応することを想起させ、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解する必要がある。そのために、「詳しく説明している言葉（修飾語）はどれか」という問いと「どの言葉を詳しく説明（修飾）しているか」という問いのように、修飾と被修飾との両面から発問するとともに、連体修飾と連用修飾の文や、修飾語と被修飾語の位置関係が近い文と遠い文などの例文を示したりするなど、多様な例文を用意し意図的に発問することが有効である。また、文や文章の内容の理解だけでなく、表現する場合にも語句相互の関係に気を付けて文を組み立てることを意識させたい。

書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書くこと、二段落目に資料から読み取ったことを基に自分の考えを書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を通して、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、自分の考えを記述する際には、理由や事例を踏まえて書く学習が必要である。

5 小学校第5学年 算数

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	53.7	52.9	0.8

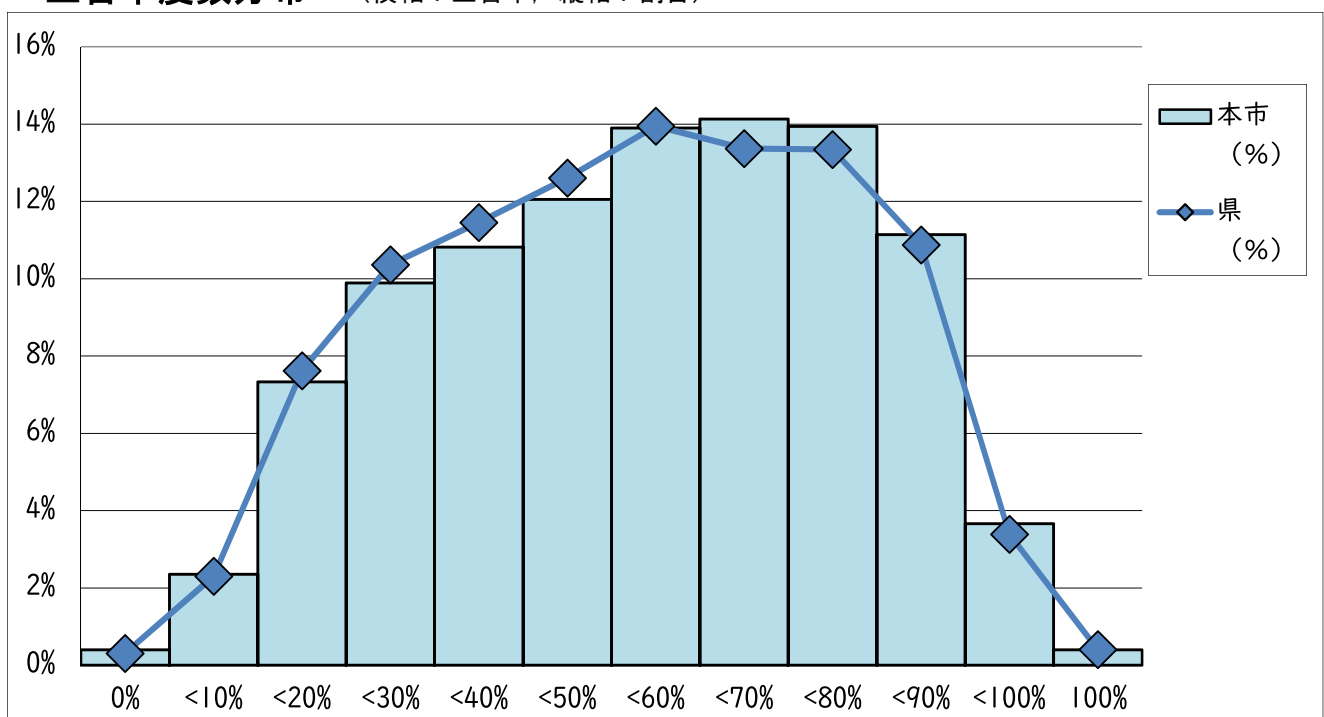
カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	54.9	53.7	1.2
	図形	56.6	56.1	0.5
	変化と関係	55.1	55.2	△0.1
	データの活用	45.5	44.8	0.7
観点別	知識・技能	57.8	57.2	0.6
	思考・判断・表現	40.6	39.5	1.1

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (県平均との差 1.2 ポイント)

- 数直線をもとに、異分母分数の相当関係について答える設問の平均正答率は 79.7% であり、県平均を 6.1 ポイント上回る。単位分数を理解し、数直線上に示された複数の分数の大小関係を比較することに良好な状況が見られる。

図形 (県平均との差 0.5 ポイント)

- 直方体の面に垂直な辺をすべて答える設問の平均正答率は 61.0% であり、県平均を 3.4 ポイント上回る。直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解することに良好な状況が見られる。
- 平行四辺形を作図する設問の平均正答率は 41.9% であり、県平均を 3.9 ポイント下回る。平行四辺形の性質を理解し、コンパスを用いて作図することに課題が見られる。

変化と関係 (県平均との差 $\Delta 0.1$ ポイント)

- 30 円を 1 と見たとき、90 円の大きさを答える設問の平均正答率は 68.5% であり、県平均を 0.2 ポイント上回る。割合の仕組みを理解することに良好な状況が見られる。
- 同じ長さの棒を並べて正三角形を作るときの「1 辺の棒の本数」と「使用した棒の本数」の関係を考える設問の平均正答率は 41.4% であり、県平均より 1.3 ポイント下回る。伴って変わる 2 つの数量の関係を読み取り、式に表すことに課題が見られる。

データの活用 (県平均との差 0.8 ポイント)

- 気温と降水量についての変わり方を比較する折れ線グラフを読み取る設問の平均正答率は 58.3% であり、県平均を 2.6 ポイント上回る。2 つの折れ線グラフから、必要な情報を読み取ることに良好な状況が見られる。
- けがの人数についてのグラフから変化の様子を読み取る設問の正答率は 9.4% であり、県平均を 0.6 ポイント上回るが、無回答率が 48.2% であり、県平均を 2.2 ポイント上回る。グラフから必要な情報を読み取り、判断の根拠となることを説明することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

変化と関係

関数の考えを育成するためには、日常生活の具体的な場面において、表や式、折れ線グラフを用いて変化の様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができるようにするとともに、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する活動を充実させることが有効である。

データの活用

データの分類整理の学習では、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察することが大切である。その際に、グラフから正しく変化の様子を読み取り、判断の根拠となることを説明できるようすることが重要である。

6 小学校第5学年 理科

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	61.4	59.8	1.6

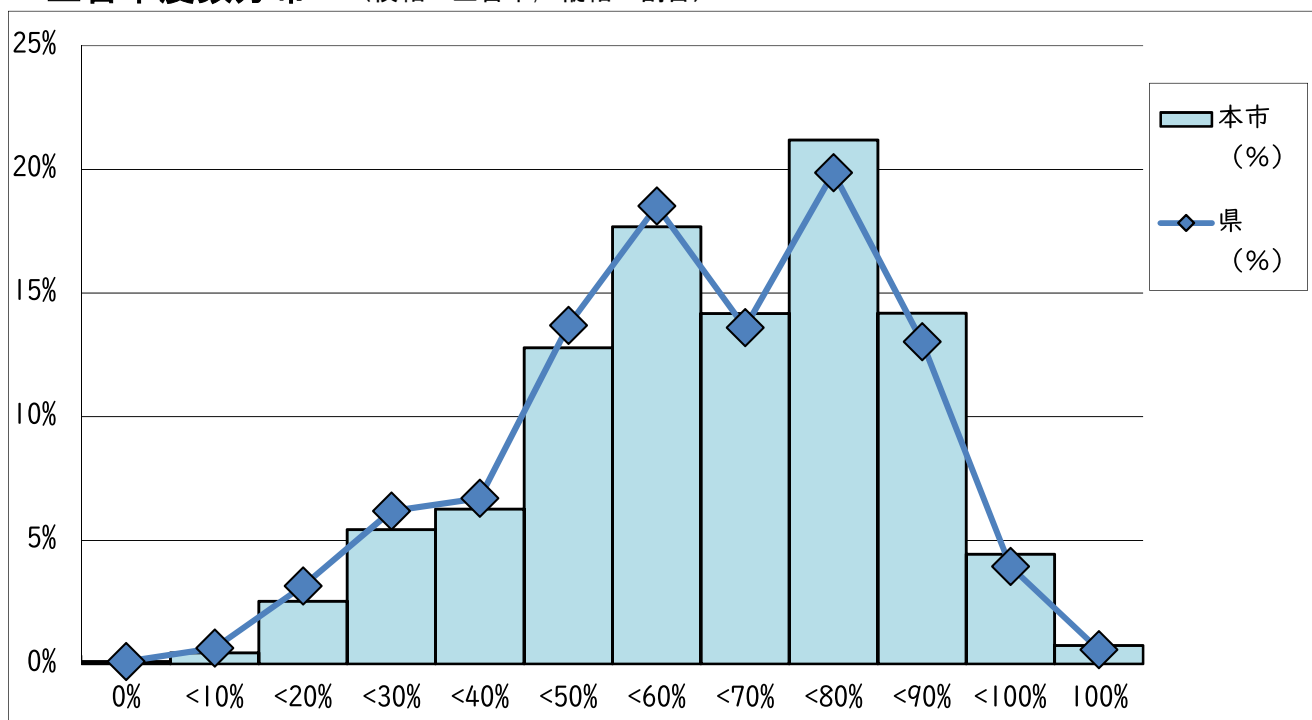
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	46.0	44.3	1.7
	「粒子」を柱とする領域	57.7	56.6	1.1
	「生命」を柱とする領域	67.8	66.9	0.9
	「地球」を柱とする領域	67.2	64.6	2.6
観点別	知識・技能	60.8	59.2	1.6
	思考・判断・表現	62.1	60.4	1.7

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域 (県平均との差 1.7 ポイント)

- モーターの回る速さが同じ回路を選ぶことについての設問の正答率は 46.4%で、県平均を 4.3 ポイント上回る。2つの乾電池が並列つなぎの回路に流れる電流の大きさが乾電池 1つの時と同じであることの理解に良好な状況が見られる。
- 簡易検流計の針のふれ方からわかることについて答える設問の正答率は 31.3%で、県平均を 1.1 ポイント上回るが、正答率は低い。簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解することに課題が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (県平均との差 1.1 ポイント)

- エアコンで部屋全体の空気を温める方法を答えることについての設問の正答率は 74.3%で、県平均を 2.2 ポイント上回る。空気の温まり方と日常生活を関連付けて思考・判断することに良好な状況が見られる。
- 水を熱したときの熱の伝わり方の仮説が正しかった場合、どのような実験結果になるかを選ぶことについての設問の正答率は 30.2%で、県平均を 2.7 ポイント下回る。水の温まり方について仮説が正しかった場合に得られる実験結果を思考することに課題が見られる。

「生命」を柱とする領域 (県平均との差 0.9 ポイント)

- 腕を伸ばした時の筋肉の様子についての設問の正答率は 63.7%で、県平均を 1.5 ポイント上回る。筋肉の働きについて思考することに良好な状況が見られる。

「地球」を柱とする領域 (県平均との差 2.6 ポイント)

- 温度計を使って気温を正しく測ることについての設問の正答率は 67.0%で、県平均を 6.7 ポイント上回る。観測機器の使い方についての理解に良好な状況が見られる。
- 雨が降った後の校庭で、水が流れているところの近く置いたビー玉の様子から水の流れる向きを選ぶことについての設問の正答率は 83.4%で、県平均を 2.8 ポイント上回る。実験結果から水の流れる向きを読み取ることに良好な状況が見られる。
- 月の動きについて観察した記録カードを選ぶことについての設問の正答率は 65.6%で、県平均を 0.6 ポイント下回る。天体の動き方を理解することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

「エネルギー」を柱とする領域

電流の働きについての学習では、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子について考えたことを、図を用いて表現したり、「電流」、「直列つなぎ」、「並列つなぎ」という言葉を使用して説明したりするなど、電流の働きについて考えたり、説明したりする活動の充実を図ることが望まれる。

「粒子」を柱とする領域

金属、水及び空気の性質についての学習では、金属、水及び空気の性質を調べる活動を通して理解を図るとともに、体積や状態の変化、熱の伝わり方に着目をして、それらと温度の変化とを関連付けて、根拠のある予想や仮説を発想し、表現し合うことで自分自身の考えを深めたり、視点を広げたりすることができるよう引き続き指導していくことが望まれる。

7 小学校質問調査

【児童質問調査】

調査結果（全 94 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、4・5年生ともに県平均と3ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4年生		5年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	92.4%	0.3	92.7%	0.2
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	72.6%	△3.2	71.2%	△2.8
3	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。	84.8%	1.8	85.4%	1.5
4	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	90.0%	0.1	93.6%	0.8
5	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	89.2%	△0.6	91.6%	△0.5
6	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	88.5%	△2.0	78.2%	△3.2
7	グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	76.5%	0.2	77.3%	0.1
8	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	77.1%	△0.4	78.7%	0.4
9	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	52.0%	0.2	48.1%	△0.2
10	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。	33.4%	△1.9	34.5%	△1.7
11	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	74.2%	△1.8	74.3%	△1.0
12	家で、学校の授業の復習をしている。	63.6%	△4.3	62.2%	△5.6
13	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	63.0%	△1.2	60.1%	1.1
14	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※1時間以上	42.4%	△2.7	50.3%	△1.0
15	自分には、よいところがあると思う。	84.0%	1.1	83.8%	1.7
16	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	75.8%	1.1	75.7%	1.1
17	先生は学習のことについてほめてくれる。	89.5%	1.1	90.9%	1.6
18	家の人、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	88.4%	1.6	89.3%	2.0
19	家の人と将来のことについて話すことがある。	70.5%	1.7	70.6%	3.5
20	家の人と学習について話をしている。	79.4%	1.0	80.6%	2.9
21	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	34.7%	2.9	29.8%	1.8
22	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	76.4%	3.6	76.5%	3.6

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

学ぶ意欲・授業について (No. 1～10)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は 90%以上であり、特に高い。授業の受け方のきまりを作成・活用するなどして学習規律の徹底を図る指導が行われているものと考えられる。
- No. 3 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。教材や発問を工夫し、児童の知的好奇心を大切に、学ぶことに興味をもたせる指導が行われているものと考えられる。
- No. 2, 6 の肯定的な回答の割合は県平均を下回っており、児童自身が見通しを立てて課題を解決するなどの学習を工夫するなどして、主体的に学ぶ態度を育てる必要がある。また、見通しに対する本時の学びや自己の変容を振り返って書く活動を着実にやる必要がある。
- No. 9 の肯定的な回答の割合は 50%前後に留まっているとともに、No. 10 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり、書いたりして表現する力を育む指導を工夫するとともに、特に、文章にまとめて書く活動を充実させる必要がある。

家庭学習について (No.11～14)

- No. 11, 12 の肯定的な回答の割合について、県平均を下回っている。家庭学習の習慣化に向けた指導を一層推進していく必要があるものと考えられる。

自分自身のこと・家の人や先生について (No.15～20)

- No. 15, 17 の肯定的な回答の割合は県平均より高く、児童のよさや努力を認め、励ます指導が推進されているものと考えられる。
- No. 16 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。地域の教育資源を活用した学習や、社会の問題について考える学習が積極的に取り入れられているものと考えられる。
- No. 18～20 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭の理解や協力を得る取組が推進され、連携が図られているものと考えられる。

毎日の生活について (No.21, 22)

- No. 21, 22 のテレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日1時間未満の児童の割合は県平均を上回っており、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組などの一定の効果が表れているものと考えられる。

【学校質問調査】

調査結果（全 74 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり（児童の様子については 4・5 年生ともに 10 ポイント以上差のあるもの）本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題活用に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No.9～13 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

＜児童の様子＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4 年生		5 年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	81.2%	2.2	88.9%	7.9
2	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	81.2%	△0.7	91.3%	7.9
3	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	88.4%	1.5	87.0%	1.8
4	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	73.9%	1.5	75.4%	2.4

＜学校の取組＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	児童の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	98.6%	1.2
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	84.1%	△6.4
7	授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	92.8%	4.6
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	98.6%	0.0
9	児童の実態を把握して、宿題を出している。	94.2%	9.6
10	目的を児童に伝えて、宿題を出している。	88.4%	3.6
11	やり方を児童に十分説明して、宿題を出している。	88.4%	5.9
12	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	88.4%	0.9
13	宿題の内容に応じて評価し、児童に伝える工夫をしている。	75.4%	6.8
14	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	97.1%	5.4
15	学年やブロックなどの小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる。	98.6%	2.4
16	授業研究を伴う校内研修の回数 ※年間 4 回以上	88.4%	13.4
17	本調査実施後、調査対象学年の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	92.8%	0.2
18	本調査実施後、調査対象学年の 1 学年下の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	76.8%	△1.2
19	調査結果の分析を全教職員で行っている。	100%	1.8

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

児童の様子 (No. 1～4)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は、県平均を上回っている。学習規律の維持徹底を図る指導が行われているものと考えられる。

授業における学習指導 (No. 5～8)

- No. 5, 7 の肯定的な回答の割合は 90%以上であり、特に高く、県平均を上回っている。思考力や表現力を育むため、グループ活動等により課題について話し合っまとめ表現する活動を取り入れ、言語活動の充実が図られているものと考えられる。
- No. 8 の肯定的な回答の割合は 90%以上であり、特に高い。指導と評価の一体化を念頭に置いた授業づくりが意識されているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。自分の考えを書いて文章にまとめる活動を充実させ、表現する力を育む指導の充実が図ることが必要である。

家庭学習の指導 (No. 9～13)

- No. 9～13 の肯定的な回答の割合は、県平均を上回っている。家庭学習の習慣化に向けた取組が推進されているものと考えられる。

校内研修の充実 (No.14～16)

- No. 14, 15 の肯定的な回答の割合は 90%以上であり特に高く、No. 16 の授業研究を伴う校内研修が 4 回を超える割合は、県平均を 10 ポイント以上高く、上回っている。各学校において授業研究を工夫し、目指す授業の方向性を共通理解した上で、授業力向上を目指す実践が定着しているものと考えられる。

学力調査の活用 (No.17～19)

- No. 19 の肯定的な回答の割合は 100%であり、No. 17 の肯定的な回答の割合は、90%以上と、特に高い。調査結果をもとに成果や課題を把握し、学校全体で指導改善に生かす取組が推進されるとともに、効果を検証する取組が進められているものと考えられる。
- No. 18 の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っている。学習内容の習得状況や課題の改善状況を確認するために、学力調査の問題の活用を工夫する必要があるものと考えられる。